令和5年度 No.5

駒岡小学校だより

８・９月号

「ありがとう」という言葉

教務主任　松尾 知起

楽しかった夏休みもあっという間に終わり、子どもたちの元気な姿が駒岡小学校に戻ってきました。「ああ、学校が始まる。」と思っている子もいれば、友達に会うのを心待ちにしていた子もいると思います。私たち職員も、子どもたちの笑顔を見たり、実際に関わって成長する姿を見たりしていく中で、子どもからエネルギーをもらい、「よし、これからもがんばるぞ。」という気持ちになります。それは、この仕事の素晴らしさでもあります。

さて、初めて学校だよりの巻頭を書くことになり、「何を書こうか。」と夏休みの間ずいぶんと悩みました。私にとってこの夏一番の「夏休みの宿題」でした。宿題に取り組む子どもたちの気持ちが分かった気がします。悩んだ結果、私の大好きな言葉である「ありがとう」について書こうと決めました。

学校生活の中で、職員から子どもたちに「ありがとう」と伝えたり、逆に子どもたちから「ありがとうございます」と言われたりすることがあります。私も普段から「ありがとう」、「ありがとうございます」という言葉をよく使いますが、「ありがとう」のもともとの意味は、形容詞の「有り難し」の連用形「有り難く」の「く」の部分が「う」と発音されるようになったという説があります。「ありがとう」は本来「有ること」が「難しい」という意味をもっており、滅多にないことや貴重であることを指しているそうです。その後、貴重な出来事に対しての感謝の言葉となり、現在は一般的なお礼の言葉として使われるようになったそうです。そんな思いを込めて使っていきたいと思います。

また、私は口癖で「すみません」や「申し訳ありません」という言葉もよく使います。謝罪の言葉も大切ですが、置き換えられる場面では感謝の言葉である「ありがとう」に置き換えて話すようにしています。そうすることで、お互いが前向きな気持ちになれると考えているからです。

他にも、私が好きな言葉は、「すごいね」や「がんばったね」、「助かったよ」などです。これらも言われてうれしい気持ちになる言葉ですが、大人から子どもたちへ言うことが多いです。その点、「ありがとう」のよいところは、どちらからも使える言葉であることです。

駒岡小学校に、たくさんの「ありがとう」がもっとあふれれば、さらにやさしく、前向きで、安心できる学校になっていくと考えています。学校生活のいろいろな場面でその都度、具体的に「ありがとう」を伝えていきたいと思います。さらに、家庭・地域の方にもありがとうの輪が広がれば、地域全体でお互いのことを思いやり、感謝し合える、より素晴らしい「駒岡」になると考えています。

お忙しい中、最後まで読んでくださり、本当にありがとうございました。